

チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	若者を鶴岡市に呼び込むためのビジネスプラン策定	鶴岡市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	鶴岡市で庄内藩藩校致道館完全復活		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	新潟法律大学校社会創生チーム①		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数（公開）	9名		
代表者（公開）	渡邊 幸依		
メンバー（公開）	宮川 竜太郎 武藤 夢捺 藤原 俊太	中澤 拓実 中島 麻理	笹崎 芳江 山本 成伯

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名をCOG2020_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院のCOG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。3.

公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

○

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

高校生たちが鶴岡の子育て家庭を知り、鶴岡で働き子育てをする利点を体感するための研修を行う。また、鶴岡の将来性を考える機会を創り、鶴岡で生活することを考える。鶴岡の中に将来の自分のロールモデルを発見することが目的。現在によみがえる致道館スピリットをベースに、誇り高き庄内藩士を育てた致道館の完全復活を目指す。

<この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで・・・>

<「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

■ 庄内藩校致道館の歴史

徂徠学という中国の古典などの原書を読み本質の理解を追求する学問。その徂徠学を学ぶ庄内藩校致道館。「学生がいつの間にか学問を身につける空間」「学校は、少年たちの遊び所であり、面白い授業、面白い本を与える」「自分でテキストを選び、自らの力で学習する」という環境で学ぶ。これが、致道館の姿である。また、「藩政にかかわる施策や方法は、学問をすることで身につく。学問を身につける場は藩校。ならば藩校そのものを藩庁（藩の役所）とすべきだ」(注①)という思想のもと、教育を行う藩校の中で藩政を行っていた。子供や若者と大人と一緒に過ごすことで子供たちが自分の将来の姿を身近に感じることが出来ていた。将来の自分が見える中で自由に考え自由に学習をするという特徴を致道館は持っていた。《参考資料及び引用(注①)：幕末最強・庄内藩士の強さを支えた「驚きの教育システム」河合敦 現代ビジネス》

■ 現代によみがえりつつある致道館

現代でもその思想を引き継ぐ、慶應義塾大学先端技術研究所・鶴岡致道大学・東北公益文化大学大学院・キッズドームソライ・スイデンテラスライブラリー・鶴岡サイエンスパーク特別研究生など、施策や施設が数多くある。各研究施設では本質の追求や自由に学べる空間など魅力あるものが溢れている。しかし、子供や若者と大人と一緒に過ごすシステムは存在しない。つまり、若者が自分の将来の姿を身近に感じ、ロールモデルを創る仕組みがないのだ。

■ 将来の自分が見える致道館を現在に復活させる

今年、キッズドームソライでは放課後学童クラブが創設された。この学童保育施設では高校生がボランティアで子供たちに勉強を教えるなどの日常的な活動を通じて子供たちが少し年上のお兄さんやお姉さんと関わっている。そのため、子供たちは、少し先の未来に目を向けることが出来る。また、地域の大人とも交流することで様々な仕事や生き方に触れ、未来の可能性を広げることが出来る。この施設では、小学生の子供たちのロールモデルがたくさんいる。しかし、地元を離れる選択ができる年代でもある高校生たちのロールモデルはどうだろう。高校生が自分たちの将来のロールモデルと鶴岡で接する機会はほとんどない。機会がないから鶴岡にロールモデルがあることを知る事ができない。そのため、若者が首都圏に進学するなどを機に鶴岡から離れた後、戻ってくる事が少ない。江戸時代の致道館の様に、自分の将来の生活を考える上で見本となる大人が高校生の身近にいれば若者が鶴岡に残るのではないかと考える。

■ 私たち 10 代の考える地方

「自分の生まれた地元の魅力を感じない。」「いいものがあるのかもしれないけど、日本の中心は東京だし、なんとなく東京に行けばいいかな。」今地方に住んでいる若い年代の人が東京などの関東圏に出る理由のほとんどがこの考え方と思う。若い年代の人たちが自分たちの生まれ育った生まれ育った場所にいたいと思ってもらうには高校生の年代の子たちが「自分は将来こんな風になりたい！」という自分の夢にあった大人との交流が必要。現在鶴岡市には素晴らしい観光資源と産業や、先端バイオ産業の芽があります。ただ、日本のシリコンバレーとでもいべき未来が想像できるにも関わらず、毎年約 1000 人もの高校生が進学や就職を機に地元を離れたまま戻って来ないという現状があります。

■ 私たち 10 代が鶴岡での人生を知るための方策

そこで、私たちは、キッズドームソライの学童にボランティアで来ている高校生と学童に来ている小学生の保護者と交流する機会にスポットを当てた学童保育づくりを提案します。今までの学童保育は児童の保護、保護者の就労支援がメインとされてきています。提案する学童は、そこに高校生と保護者の交流をプラスした学童です！なぜ、学童保育で高校生と保護者の交流にスポットを当てるのか。それは、自分のロールモデルを見つけることが出来ずなんとなく関東圏に出てしまう高校生。成果が見えづらい、子育てという仕事・家庭をつくる仕事の大変さを語る場がない社会人。この両者はこの学童が実現したらとても良い関係になれると考えます！これを実現するため、リアルな子育て社会人を知るために、月に 1 回保護者と高校生の交流会を開催します。交流会を開催することでロールモデルとなる社会人と出会う機会を創出し、キャリアプランを考えることができるでしょう。また、保護者がメンターとなり就職相談・将来設計などのアドバイスをを行います。保護者や先生とは違う人生の先輩からのアドバイスは、高校生にとって良い刺激になります！さらに、子育て家庭のリアル・社会人のリアルなどの講座などのイベントも。鶴岡での人生を知るイベントが盛り沢山です。

■ 高校生のお兄さんお姉さんは子供たちのメンター

高校生は最初に 2 か月の事前研修期間を行います。事前研修期間では、スクールマネージャーの指導の下、子育ての現状を知り、必要となる基礎的な知識やスキルを学びます。この研修期間を通じて鶴岡の子育ての現状を知るだけでなく、日本の子育ての現状についても知ることができます。社会科の授業はありますが、「日本の子育て」を知る機会はなかなかないでしょう。現状、ソライでは児童・保護者向けのサービスとして、通常時は 11 時から開校、休日・長期休み期間は 8 時から開校しています。ただし、高校生からの指導は 15 時からです。小学 1 年生から 3 年生までは、学校の宿題を中心に高校生が 1 時間程度、課題のサポートをします。小学 4 年生から 6 年生は、授業の予習や復習はもちろん、勉強にしっかり力を入れます。その他長期休みの際には、生徒が自由研究等のサポートも行います。高校生が自由研究のサポートに入ることで、自宅で児童だけで行うには少し難易度の高い研究も行うことができるでしょう。いろんなイベントを通じて生徒と児童の絆が深まること間違いなし！また、並行して児童の特性に合わせて提供するイベント（お楽しみプログラム）を企画を行います。この企画は生徒たちが 2～3 人ほどのグループに分かれて力を合わせて考えます。これを通じて自分たちで考えて企画し、行動する力を身に付けることができます！この経験は進学したときにはもちろん、就職した際に大きな糧となるでしょう。

■ ごちゃませ藩校致道館完全復活の巻

システムが回るようになったら、サイエンスパーク内の研究施設や図書館なども連携して、研究者の公演や図書館での読み聞かせなどなど。できる人が教えて、できない人が聞く。そこには大人も子供もありません。研究所では高校生や中学生が自由研究。。。そこには子供もいたりします。皆が鶴岡に誇りを持つイベントや仕組みを皆で模索。皆で教えて皆で学ぶ。。。そう！致道館完全復活です。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明**してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます>

■ 鶴岡市の現状(出生率・高齢化率・生産年齢人口比率)

鶴岡市の総人口は、1955年にピークを迎え、1980年からは減少が続いている。特に2005年以降の人口減少は平均1200人ほどの人数が減少している。これは自然動態による死亡者に伴う減少であり、出生数より死亡数が上回っている。高齢者人口は年々増加し、年齢別人口割合は少子高齢化へと進んでいる。2025年には団塊世代が75歳以上の後期高齢者となり、死亡数がさらに増加すると予想される。高齢者人口自体は2020年をピークにその後減少が見込まれているが、15歳以上64歳以下の生産年齢人口や15歳未満の年少人口も減少し続けることにより、高齢者の人口割合は上昇を続け、2040年には40%となる。出生数においては、2012年には年間出生数が1000人を下回り、2017年には800人を下回り、今後も少子化傾向が続くと予想される。

《2020年度SDGs未来都市等提案書 鶴岡市長皆川治》

■ 鶴岡市の現状(人口流出とその原因)

現在の市内高校卒業生の進路状況は、進学や就職で毎年1000人もの卒業生が鶴岡市を離れ、そのまま県外へ定着する傾向が強い。地元就職は山形県内の他地域に比べて低い。それによって市内企業は人材確保が厳しくなり、経済活動の縮小や衰退へとつながる。大都市への若年者流出の原因には東京志向の考え方が人々に根付いていることが原因である。東京にはなんでも揃っていて住みよい街だという考え方から若年者は東京へ移住する。

確かに東京には政治、経済、文化の中心がすべてそろっている。《2020年度SDGs未来都市等提案書 鶴岡市長皆川治》

■ 東京の価値観で地方創生の愚

「商業施設揃っている」「あらゆる産業が発展している」「求人の種類も多い」「産業施設の充実」「アミューズメント施設の充実」「高等教育機関も充実」東京を頂点とする地域活性の価値観。このベクトルで地方の価値を図ると東京を中心とした首都圏が断トツトップとなる。関西圏がそれに続き地方都市は全く太刀打ちできない。栄えているところがさらに人口流入し、そうでないところが人口流出する。これでは地方都市の疲弊は止まらない。

■ 地方の価値観の復活とその浸透の必要性

少し視点を変えると地方は捨てたものではない。生活のゆとりが溢れている地方がそこにある。「職住近接」「仲間や先輩とのつながり」「自然豊かなシチュエーション」働く場と生活が両立でき、家族の時間を確保できる。幼いころから脈々と培った仲間や友人とのコミュニティがあり、支えあって暮らす環境も素晴らしい。自然豊かで余暇を楽しめる環境がある。ここまでは、どこの地方でも首都圏に勝つことができる。戦後高度成長期から今に至るまで、地方は東京の価値観に負け続け、衰退を世患なくされてきた。しかし、価値観のベクトルを変えれば、首都圏にない素晴らしい環境がある。さらに、首都圏にはまねできないエッジの効いた産業があれば、首都圏では考えられないほど住みよい都市となることができる。この価値観の浸透し、皆がその価値観を持つようになることが地方創生の第一歩となる。

■ 地方の価値観で具体的生活を考えたときの首都圏と地方都市

子育てや仕事を考えたとき地方の価値観でそれぞれを見ると違った世界が見えてくる。首都圏では民間学童保育が急増している。子供を預けられる時間が 21 時や 22 時の遅い時間まで延長対応してくれる所や自宅まで子供を送り届けるサービスを行う所もある。しかし、その分利用料金が 2,3 万円に加え、月額利用料金は 4~5 万円に上る場合が多い。民間の対応により徐々に待機児童数は減ってきているが、いまだ 2,343 人にまで上る。仕事は首都圏の中心部に集まることがほとんどで、通勤時間も長く、生活と仕事の場所的乖離が存在する。地方には家族だけではなく、幼いころから気心の知れた仲間や近所など、プライベートで強い絆を持つコミュニティが存在する。また、生活場所と仕事場所が近く、首都圏のような場所的隔離がほとんど存在しない。地方(地元)で子育てをすることで、保育園の待機する必要もなければ、周りから子供の面倒を見てもらうことも可能である。休日は山や海への行楽など家族時間にうろおい、子供の怪我や病気など突発事案への対応も首都圏と比較したらスムーズに対応することが出来る。

■ 地方都市発展の条件と鶴岡市のポジション

「良い子育て環境と教育」「発展が見込まれる産業」「職住隣接でかつ余暇を楽しめる環境」「健康で長生きできる仕組み」生まれてから死ぬまで人生のすべての絵が描ける都市であることが、地方都市発展の条件と考えた。そのように考えると、鶴岡市は地方都市発展のロールモデルになるポテンシャルを持つ。

① よい子育てができる環境（子育て・幼少期）

職住隣接の環境があり、家族団らんの時間を設けやすく、子供達は豊かな自然の中で創造性や心の豊さを育てる。

② 良い教育が受けられる環境（小中高・少年期）

サイエンスパーク内に存在する大学院やその研究施設、子供達のためのキッズパークソライなど施設や施策が多数ある。

③ 余暇を十分楽しむ環境（青年・壮年期）

豊かな自然や歴史文化は余暇を楽しむことにも適している。登山、寺社巡り、歴史探訪など多彩な楽しみ方がある。

④ 発展が見込まれる産業（就職・雇用）

バイオ産業の最先端の拠点が存在し。さらには観光産業においても様々な観光地として豊かな資源が揃っています。

⑤ 健康で長生きできる環境（老年期・終末期）

医療に関しても様々な取り組みをしている。開発した医療技術を基盤に施設で市民へ向け健康調査セミナー開催。
《参考資料：山形再興 先端研究の求心力「鶴岡サイエンスパーク」他 山形新聞・慶応大学先端技術研究所ホームページ・国指定史跡致道館ホームページ・ユネスコ食文化創造都市鶴岡ホームページ・鶴岡市民 1 万人巻き込む健康プロジェクトも「他に真似できない」街づくりを 新公民連携最前線 日経BP 総合研究所》

■ 住みよい鶴岡という事実の浸透により市外流出の若者を取り戻す

サイエンスパークをはじめとする研究機関や教育機関、慶応義塾大学先端技術研究所・東北公益文化大学大学院・致道ライブラリー・キッズドームソライ・スイデンテラスライブラリーなど数々の教育施設や研究所が存在する。産業に目を向ければ、石油を使わない人工タンパク質繊維開発・唾液によるがんの発見・うつ病診断キット開発・移植用心臓組織の製造販売など、サイエンスパークから生まれたベンチャーは今後の日本を支える産業になるポテンシャルを秘めている。年間観光客数 600 万人で山形県 1 位の實力。さらには、2019 年にはインバウンド入込数 35 万人だったが、Gaijin Pot Travel など 2019 年日本ベスト 9 に選ばれた、将来へ期待が持てる観光資源。ユネスコ食文化創造都市としてコロナ禍後のインバウンド需要にも期待ができる。しかし、市民たちはその恩恵をあまり感じていないだけでなく、日本を支える産業になる可能性があるという認識がほとんどない。このような事実を知れば、県外に流失してしまった若者たちも就職時には鶴岡市に U ターンしてくるのでもないだろうか。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ＞

■ アイデアを実現する主体

① 全体設計:新潟法律大学校社会啓蒙ゼミ

従来致道館にあった、子供と大人と一緒に過ごすことができるシステム、若者が、将来自分が鶴岡で暮らしている姿を身近に感じられるようなシステムは現代存在しない。そのような、子供と大人と一緒に過ごすことで子供たちが自分の将来の姿を身近に感じることができる庄内藩校致道館の思想をのシステム構築を行う。

② サービス運用主体:キッズドームソライ/サイエンスパークなど

キッズドームソライ放課後学童クラブで学童・高校生・学童の保護者の交流の場をつくる。そのための交流会やメンター制度、学童の保護者から高校生へ鶴岡での生活や子育ての苦労などの後援会などを企画運営する。また、学童保育を運営するための研修や実際のイベント運営などを通し高校生の企画力・創造力の育成も行う。

③ サービス利用者:キッズドームソライの学童利用者とその保護者/鶴岡市の高校生/最終的には市民全員

キッズドームソライの放課後学童クラブを利用している小学生と鶴岡市の高校生が、勉強を教えたり、一緒に遊んだりすることにより、高校生は小学生のロールモデルになる。また、小学生の保護者がメンターとなり高校生の就職相談、人生設計のアドバイスをする。さらに、講演会や交流会を開き話し合いの場を設けることにより、利用者が運営者であり運営者が利用者である状態を創る。つまり、全員が運営者として皆で創り上げる場となる訳である。

■ アイデアの実現に至るプロセス

STEP1 キッズドームソライへアイデアの提案

今年創設されたキッズドームソライの学童保育。この学童で高校生と学童を利用している児童の保護者が交流する機会を提供することを提案します。この交流会を開催することで高校生は自分の理想のロールモデルを見つけることができます。自分の理想を鶴岡で見つける。これは将来若い年代の人たちに地元鶴岡に残ってもらう、戻って来てもらうためにとても重要なことです。また、自分の保護者や学校の先生とは違う人生の先輩からのアドバイスは、高校生にとって良い刺激になります。

STEP2 ボランティアに来てくれる高校生の確保

ボランティアに来てくれている高校生たちをサークル化し、活動内容を高校で広めてもらうことによって、ボランティアに来てくれる高校生を増やします。また、交流会や講演会の高校生の参加費を無料にすることでボランティアをしなくなるような制度を作ります。高校生の口コミを中心とした広報活動を基本として、Twitter や、Instagram などの SNS を最大限利用し、高校生に対しての宣伝を行います。

STEP3 高校生と小学生の交流

高校生からの小学生への指導は 15 時から始まり、小学 1～3 年生は学校の宿題を中心に生徒が 1 時間程度課題のサポートをします。4～6 年生に対しては、宿題や予習、復習のサポートに加え、高校生自

ら各児童の個性に合わせて企画する「お楽しみ！プログラム時間」により、勉強にさらに力を入れます。長期休みの際には児童の自由研究をサポートすることで少し難易度の高いものにもチャレンジできます。

STEP4 保護者と高校生の月に1度の交流会

児童のメンター高校生へのお返しとして、保護者に高校生との交流をお願いします。月に1回、高校生と保護者の交流を開催します。この交流会では高校生の進路や就職への悩みなどを人生の先輩である保護者に相談すると同時に、保護者は自分が今どのように仕事をしているのか、子育てはどのようにしているのかなど鶴岡での子育て社会人の生活についてご自身の在り方を高校生に話していただきます。この交流会を通じて高校生は自分の理想のロールモデルを発見し、キャリアプランを創造するのです。

STEP5 保護者や鶴岡市で働く人による、高校生への講演会

子育ての家庭のリアル・社会人のリアルなどの講演会を開催します。この講演会を開催することで、リアルな子育て社会人を知り、自分のロールモデルとなる社会人と出会う機能を創出することでキャリアプランを考える知識を獲得します。

STEP6 スタッフと連携した、高校生の学童保育運営研修

学生向けサービスシステムの最終形がこの形です。最初の2カ月を学生の事前研修期間とします。事前研修では、研修でスクールマネージャーの指導の下、子育ての現状を知り、必要となる基礎的な知識やスキルを学びます。その後、実際に高校生が小学生に勉強を教えます。また、講演会や交流会を行います。その中で高校生たちが自分のロールモデルを発見することが目的となります。

STEP7 ごちゃまぜ藩校致道館完全復活の巻

システムが回るようになったら、サイエンスパーク内の研究施設や図書館なども連携して子供から大人までがつながり分かり合う。皆が鶴岡に誇りを持つイベントや仕組みを皆で模索。そう！致道館完全復活です。

■ スケジュール

初年度

内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
STEP1 キッズドームソライハ提案	●アイデア提案											
STEP2 ボランティア高校生確保	募集資料作成 ● ●高校へ提案											
STEP3 高校生と小学生の交流	高校生募集 → 事前研修 → 小学生高校生初顔合わせ ● 高校生と小学生の交流(学童保育運営研修)											
STEP4 保護者と高校生の交流	●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会											
STEP5 社会人のリアル講演会	●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会											
STEP6 高校生の学童保育研修	事前研修 → 高校生と小学生の交流(学童保育運営研修)											
STEP7 藩校致道館完全復活												

2年目

内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
STEP1 キッズドームソライハ提案												
STEP2 ボランティア高校生確保	高校生募集 → 事前研修											
STEP3 高校生と小学生の交流	高校生と小学生の交流(学童保育運営研修)											
STEP4 保護者と高校生の交流	●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会 ●交流会											
STEP5 社会人のリアル講演会	●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会 ●講演会											
STEP6 高校生の学童保育研修	高校生と小学生の交流(学童保育運営研修)											
STEP7 藩校致道館完全復活											

2年目までは高校生にとってはサークル的な活動として、小学生さらにはその保護者との交流を深め、鶴岡生活のリアル、子育てのリアルを知り、将来の自分を考える活動を行う。その後、状況が許せば鶴岡の全高校生が学ぶ授業として昇華させるか、そのままサークルとして続けるかを判断し、事業を再構築する。